

海外 FD 研修報告

生命先端工学専攻 生物工学コース 渡邊 肇

平成22年3月8日(月)から21日(日)までの2週間にわたり、カルフォルニア州立大学フルトン校(California State University, Fullerton)でのFD研修に参加した。すでに参加した先生方からの報告にもあるように、大きくは英語によるプレゼンテーションスキル、インタラクティブな講義法、指導教授のクラスへの参加と模擬授業の3部にわかれており、それぞれの講義を受けた。

英語によるプレゼンテーションスキルは、日本人の特徴をよく理解した講義であり非常に参考になった。受講者の人数が少ないこともあるが、授業の進め方自体がインタラクティブな講義法をとっており、興味深かった。プレゼンテーションスキルは英語に限らず日本語でのプレゼンテーションにも有用であった一方で、発音などについては数時間の授業で長年の癖は矯正できず、今後どのように習得するかは課題である。

インタラクティブな講義法については、実際に授業参観を行いそれをもとに学生の興味をひくために有効な技術などについて検討を加えた。他の先生がすでに報告している点ではあるが、200名という比較的大人数の教室においても殆どの学生が講義に耳を傾け、教師の質問にも答えていたのは、日本の講義風景とは大きな差であった。残念ながら参観できたのは1コマだけであったが、貴重な機会だったので他にもいくつかのタイプの講義を見ることができれば参考になったかと思う。



授業風景

模擬授業は20人程度の少人数の学生(学部学生および修士学生)を対象として講義を行った。講義での質問には積極的に答えようとし、理解しようとする学生の姿勢には非常に好感が持てた。指導教官曰く、学生は最初から積極的なのではなく、いろいろと問いかけなどをして、徐々に育ててきたのだそうだ。単に日米の学生の気質の差だけではなく、教員全員が学生とのインタラクティブな講義を念頭において講義をすすめるれば、日本の

講義風景もかわってくるのではないかと感じた。

個人的には大阪大学へ移り初めての講義を終えたところであったので、非常に参考になる点が多く有用な2週間であった。

最後に、フルトン校でお世話になった方々、大学院 GP「国際連携大学院 FD ネットワークプログラム」で研修の機会を与えて頂いた金谷茂則教授および松本玲子事務補佐員に深く感謝したい。